

しみんけんきゅうニュース

発行:(公財)千里リサイクルプラザ 市民研究所
TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3
<http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

千里リサイクルプラザ30周年

【目次】

- P2 TOPICS
- P3 各チーム活動報告
- P4-5 SDGs 特集(布)
- P6 主担研究員コラム
- P7 市民研究所通信
- P8 7・8 月行事予定



30 周年記念式典は 6/26 に開催します

TOPICS

市民研究員研修講座「これからのごみ処理」

日時：令和4年5月7日(土)

講師：吹田市環境政策室 主任 前田理沙氏

内容：これからのごみ処理(食品ロス、プラごみ)

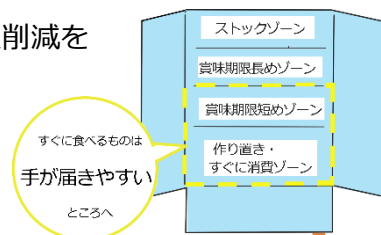
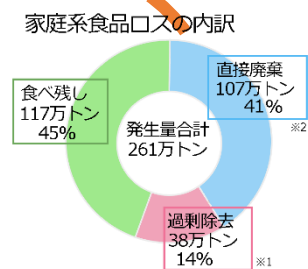
日本の食品ロスは年間 570 万トン(事業系 309 万トン家庭系 261 万トン)

一人当たり 45kg になり、これは米消費(53kg)に近い値です。

その他、消費期限と賞味期限との違いについてや、自分で食品ロス削減をやってみようについて例示していただきました。

- ①冷蔵庫の整理 ②食品を仲間別け ③期限別配置
- ④在庫チェック買物計画 ⑤フードドライブ ⑥記録してみる
- ⑦棚手前取り ⑧エコクッキング ⑨災害備蓄の回転

プラごみに関しては、レジ袋削減締結。給水機設置。回収拠点。…等 内容が盛りだくさんでした。質問タイムにも丁寧にお答えいただき、実り多い研修会となりました。ありがとうございました。



くるくる環境スクール開校式

6月11日(土) 第5回くるくる環境スクールの開校式を行いました。受講生は30代から80台と幅広く、自己紹介を聞いていると環境問題に関心が高い方や、ボランティア活動を始めたい等、目的意識をもって参加された方が多いと感じました。

【自己紹介から】

- ・ 普段出しているごみがどのようなになっているかを実際に見てみたいと思い参加しました。
- ・ 4月に東京から吹田市に転勤してきました。職業柄、環境に考慮する必要のある製品を製造しており、環境に興味があります。
- ・ 千葉県出身で、昨年吹田市に引っ越してきました。環境問題に興味があり、このスクールをきっかけに活動したいと思います。
- ・ 仕事や仲の良い友人とは違った方たちとお知り合いになりたいと思っています。
- ・ 高槻から参加しています。環境について勉強したいと思って応募しました。
- ・ ボランティアを始めるきっかけが欲しくて参加しました。
- ・ 「くるくるプラザ」「しみんけんきゅうニュース」を見てくるくるプラザに興味を持っていました。再エネ、プラごみ削減に興味があります。

(事務局)

プロジェクトチーム（PT）・アクションチーム（AT）活動報告

市民とお店をエコでつなぐ PT

プラスチックごみ資源循環促進法施行後、市町村の対応を注視していましたが、国や府の状況を踏まえて判断するので、動きはないようです。昨年コロナの影響で中止となったエフピコの見学については、他の施設見学も含めて再検討します。また、環境出前講座（クラブ支援）がスタートするので、その準備をしています。

手作りおもちゃと環境 AT

施設見学後の体験・クラブ支援、ワークショップなど、活動する機会が増えました。
大学生にオイル万華鏡作りを体験してもらうため大学へ環境出前講座に出向きました。
新たな手作りおもちゃの提案、検討中です。

身近な環境を調べよう PT

a.糸田川ってどんな川、b.糸田川で見つけた植物や生き物、c.糸田川のごみの3つの動画作成を検討しています。主担の黒田先生のご協力により、Facebookのグループを開設しました。興味のある方は、ぜひ参加してください！



紙すき体験と環境 AT

紙すきに利用する紙パックの説明をプロジェクターを用いて解説してから、体験をしてもらっています。
小学4年生の施設見学後の体験が4校20名が2校、12名が2校あり、体験を楽しんでもらえました。
クラブ支援にも出向きました。

吹田ごみゼロシステム研究 PT

チームのメンバーそれぞれが、自分の研究テーマについて、今年度の年間活動計画を作成しました。定例会において、その内容を主担の先生から、きめ細やかに指導・助言をいただきました。

次回は、吹田市との情報交換の進め方について協議していく予定です。

SDGs 啓発 PT

秋に実施する初めての環境出前講座に向けて、“NEW エコゲーム”の検討を進めています。また、くるくる環境スクールのチーム体験に向けてはSDGsカードゲームの検討をしています。新しいメンバーや主担の先生方と活発に意見交換をしながら進めています。

また今回のニュースの特集記事として、衣料品ロスについて調べました。

ファッションにおけるつくる責任つかう責任

市民研究員 平木陽子

国連貿易開発会議では世界で第二位の汚染産業とみなされているファッション産業ですが、服は誰もが毎日身に着ける大切なものだと思います。ファッション産業における「SDGs12 つくる責任つかう責任」に関わる問題についてまとめました。

指摘されている課題

- ・ 温室効果ガスの排出：白いコットンシャツを一枚作る時に排出される破棄ガスは車を 60 キロ運転した際の排気ガスに相当。合成繊維の洋服生産に毎年およそ 540 億リットルの石油を使用。国をまたいだ分業制により商品輸送時の二酸化炭素排出も増加している

- ・ 土壌汚染：コットン栽培での過剰な化学肥料が土壌に残ると地下水が汚染され土壌微生物の消滅により土壌の力が減少。

過耕作、過取水などによる砂漠化 T シャツ 1 枚の生産に必要な水は 2720 リットル 5 人分の 1 年間の必要飲料水量に相当。

化学農薬、化成肥料、化学ホルモンや遺伝子組み換えをしているものがほとんどであり毒性の高い農薬が多く使われている

- ・ 水質汚染：淡水汚染の 20%は染色工程での化学物質使用が原因

洗濯する際の洗剤、柔軟剤、マイクロファイバーによる汚染

- ・ 大量廃棄：手放した服が再活用される割合の合計は 34%とアルミ缶などに比較して低い。

国内で発生する繊維廃棄物は年間約 170 万トンともいわれており、未使用の布や衣料の方が多く無駄が出ている。人間の体型に合わせてつくられるため生産時にハギレが出てしまう。

家庭から手放される服の 68%が可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄されている

- ・ 動物愛護：毛皮使用が虐待にあたるという考え、一方本革は手入れによりフェイクレザーより長く持つ、フェイクレザーは生分解されない、

食肉の副産物であれば使用したいなど様々な考えがある

- ・ 人権侵害：サプライチェーン上における強制労働・違法条件での労働が横行

農家ででの農薬使用による健康被害や害虫の耐性などによる新しい農薬購入による借金

- ・ 伝統工芸の衰退：大量生産が主流になり、文化と伝統技術が世界各地で衰退している

企業の好事例の取組

- ・ インターネットでの先行予約受注

- ・ フェアトレード

- ・ AI での需要予測

- ・ ゼロウェイストデザイン

- ・ ホールガーメント

- ・ バイオマテリアル

- ・ シェアリングエコノミー

- ・ サステナブルコットン

- ・ ケミカルリサイクル

- ・ マテリアルリサイクル

- ・ 伝統技術、工芸を取り入れたものづくり

- ・ デジタルファッション

気に入ったものを長く使う事が大事だと思いますので環境負荷の少ない新素材などはまだ購入しておりませんが、色々な企業の取組の中で私はアップサイクル（在庫や回収品など別の製品として再生させる）に興味を持ち、色々なブランドの余剰在庫から新たなものを作るコミュニティに入りました。遠方の為まだ実際に造る事には参加できていませんが、余剰在庫が新しいものに生まれ変わっていく様子を見ているだけでも楽しく、ミシンの使い方なども発信されていて自分で服の修理もできるようになると良いなと思いました。

洋服ではないですが海洋プラスチックを家庭用アイロンで溶かしてアクセサリを作っているブランドもあり、真似をして作成してみまし

た。漂着ゴミを綺麗にして溶かす作業は大変で危険だったとは思いますが、ごみ拾いが楽しくなりそうなアイデアだと思いました。

消費者としてできること

- ・素材や生産ルートなどを購入時に質問したり関心を持つという行為が業界に動きを促す
- ・修理可能なものか考えてみる(リペアサービスのあるブランドか、汚れやすい衣料は染めなおしできるような天然素材を選ぶ等)
- ・認証マークは買い物のひとつの判断基準として有効であるが取得には多くの労力や財力が必要になるため基準を満たしていても取得していない企業も存在する
- ・利用頻度の少ないものは借りる選択肢も考慮してみる

1年間長く服を着る事で年間のCO2排出量を24%削減できるというデータもある。家庭から捨てられる衣料の70%がシミや縮みなどによる傷みが原因といわれているので自宅でのケアを上手に行う事で衣服を長持ちさせる。自宅での洗濯やアイロンなどのケアが服の一生の中でも非常に環境負荷が高いといわれている。タンブラー乾燥を多用するアメリカや温水を使用する硬水の地域より日本では比較的負荷が低いと考えらるが洗濯頻度が他の国と比較して高いといわれている。洗濯頻度を減らす事で衣服も長持ちする

- ・マイクロファイバーの流出を防ぐ洗濯ネットやボールを利用する、洗濯時衣類から抜け落ちる微細な繊維が排水溝を通して川や海に流れ出す。それらは徐々に分解されるが8か月間で植物由来の素材は60%以上分解されるのに対し、ポリエステルのみでは4%と殆ど分解されずに水中に残ってしまうというデータがある。海洋マイクロプラスチックの全体の35%が繊維から流れたものだとのデータもある
- ・修理をする
- ・洋服の交換会に参加する
- ・フリーマーケットなどで販売する
- ・繊維リサイクルの衣服回収を利用する
- ・古着を資源として回収に出す
- ・寄付する：途上国の国内産業を破壊してしま

う場合があるので寄付を行う際には寄付先がどこなのか、どのような影響があるのか確認する

ファッション産業は分業制でなりたち近年産業が大きくなるにつれ仕組みがより複雑に不透明になっているようです。その背景で2013年バングラディッシュにてラナプラザという縫製工場が入ったビルが崩壊し行方不明者を合わせ約4000人以上の犠牲者を出しました。この事故は低価格で大量に生産することを目指した結果によるものとされています。

年々服の価格が安くなっていて手放されるまでの期間も短くなっているというデータを見ました。私自身も汚れやすい色の服は安いものも検討したり、どこかで価格の安さと同じように簡単に処分できると考えていた部分があったと思います。安くても同じように生産に環境負荷がかかっていますし、ラナプラザの事故を知り価格の安さと同じように軽く扱えるものではないと感じました。

去年の春、種から育てるスニーカーを購入しました。まだ完成していないようですが自宅で育てたコットンを紡績工場に送り、靴工場を見学しました。

コットンは育てやすい植物だと思いますが、毎日虫を取りながら自分で育ててみてオーガニックコットンが高価な理由もわかる気がしましたし、職人さんの靴づくりの様子も見ていただいたスニーカーは特別なものになりそうです。

[参考資料]環境省サステナブルファッション 経産省ファッションの未来に関する報告書



SDG s はいつからあるのか

主担研究員 谷村綾子

自然 VS 人間の営み

SDG s（持続可能な開発目標）が人類の関心事になったのはいつ頃からなのだろうか。

中国古代の諸子百家の思想の一つである道家思想は「無為自然」の老荘思想として現代のわれわれにも伝わっているが、紀元前春秋戦国の当時から文明批判（今でいえば口ハスな自然派とでも）の立場を鮮明にしている。

『莊子』天地篇にこのようなお話が載っている。孔子の弟子の子貢（しこう）が田舎道をとおっていたとき、一人の老人を見かける。老人は田んぼに水をはるのに、甕で井戸から水をすくい、一杯ずつ運んでいた。これでは埒が開かないと思った子貢は、老人に「はねつるべ（竿の一方に重りを、もう一方に釣瓶をつけ、てこの原理で水をくむ）」という便利な機械があり、これを使えば一日百畝にも水を注げ、労力は少なく効果は絶大ですよ、と親切に教えてあげる。

それを聞いた老人は、感謝するどころか怒りの表情を浮かべて嘲笑し、「私の師匠の教えによれば」と話し始める。曰く、人が便利な機械を使って効率を上げようとする、機械頼みの心が生まれ、そうすると本来人間に備わっている純白な精神が消えていく。そうすると天地・自然とともに生きる気持ちがなくなっていく。自然の道から外れる生き方を恥じるからこそ、知ってはいてもはねつるべを使わないのだと。



機械有れば必ず機事あり、機事あれば必ず機心有り

田んぼに水を張るためにはねつるべくらいで大げさな、楽に水が汲めていいじゃないか、石油や石炭を使うわけでもなし、と現代人は思うかもしれないが、今この地球上で起きている環境問題は、結局のところ私たち人間の「ちょっとした便利さ」を与えてくれる機械の発明とそれをもとに効率を上げようとする事業の興隆（機事）、そして便利さに頼る心（機心）のために引き起こされているのではないだろうか。

天地・自然はものを言わない。いいかげんにしろと文句を言われれば人間も引き下がるかもしれないが、相手が何も言わなければ、やはり「ちょっとした便利さ」や効率性の誘惑に対して、この老人のようにきっぱりとNOといえる人は少ないだろう。

効率を求めて開発される世界中の都市や交通網、流通経路により確かに私たちの生活空間は便利になり続けて、「不便さに耐える」ことを忘れさせる。さらにもっと、なお多く、と莫大な富を求めることが人々の心を占領するようになる。自らが求めたことであるのに、自らの精神を占領され、この地球上で天と地に生かされているという充実感を感じる時間を持つことも後回しに、ただただ不安定な魂に苛まれる。

いつしか私たちは支配するつもりが支配され、大切にすべきものを選びそこなってしまうぞ、という、何千年も前の賢人からの警句が耳に痛い。はねつるべすら拒絶する老人のような固い意志がなければ、環境問題を本来的に解決することは困難なのかもしれない。それくらいの覚悟があるのか、とSDG sの時代に問われているような気がする。

参考文献

浅野裕一『古代中国の文明観』岩波新書 2005

市民研究所通信

新規市民研究員紹介

令和4年度は新しく10名の市民研究員さんが市民研究所の仲間に加わってくださいました。新しい方々からいただいたコメントを、以下ご紹介いたします。ベテラン研究員さん、新人研究員さんともに手を携え、ますます市民研究所を盛り上げていきましょう！

片山 恵子さん： 環境スクールのプログラムをとおして身近な環境に興味を持ち始め、糸田川の環境を調査するPTに入りました。街中の川に思いのほかいろいろな生物や植物がいて興味深いです。

上平 輝子さん： 紙すきに興味を持ちましてオモチャ作りと重ね合わせて、子供達と接する楽しみを教えて頂きまして、市民研究員になりました。

渋川 京子さん： 自然や環境や緑化活動に興味があったので「身近な環境を調べようPT」チームに参加させてもらい勉強しています。

林 裕加吏さん： 環境スクールをきっかけに、市民研究員になりました。生き物や植物が好きです。吹田の豊かな自然が外来種に覆われてしまわないように、学び、働きかけができればいいなと思います。

平木 陽子さん： 環境スクールから市民研究員に入らせていただきました。地域コンポストなどのごみの循環利用やSDGsに興味がありますが、まだわからない事ばかりですので、色々と学ばせていただきたいと思います。

若林 肇さん： 持続が危ぶまれている社会・環境・資源の現状に生活して、「個人ができる行動は？」との思いから参加しました。「つくる責任 つかう責任」を通して、ものの大切さを伝えられたらと思っています。

★コメントは新規市民研究員全員ではありませんが、お送りいただいた方のみ掲載しています。

(事務局)

研究所 7 月 の 予 定

日	曜	催し	時間・場所	備考	
1	金				
2	土	第3回代表者会議	13:15～ プラザ	主担・代表者・事務局	
3	日	定例会	13:00～ プラザ	手作りおもちゃと 環境AT	
4	月	休館日			
5	火				
6	水				
7	木				
8	金				
9	土	環境スクール③	10:00～14:30 プラザ	木工体験	
10	日				
11	月	休館日 環境出前講座(クラブ支援)	千里第一小学校 藤白台小学校	手作りおもちゃと環境AT 市民とお店をエコでつな ぐPT	
12	火	定例会	15:00～ プラザ	SDGs啓発PT	
13	水				
14	木	フィールドワーク・定例会	12:30豊津	身近な環境を調 べようPT	
15	金	第1回 ごみゼロウォーク実行委員会	13:30～ プラザ		
16	土	キッズ環境スクール① 開校式・環境出前講座	10:00～ プラザ	手作りおもちゃと環境AT 市民とお店をエコでつな ぐPT	
17	日				
18	月	休館日		海の日	
19	火	休館日			
20	水				
21	木	定例会	13:30～ プラザ	市民とお店をエコ でつなぐPT	
22	金	夏休み施設見学会			●
23	土	夏休み施設見学会			●
24	日				
25	月	休館日			
26	火				
27	水				
28	木				
29	金				
30	土				
31	日				

研究所 8 月 の 予 定

日	曜	催し	時間・場所	備考	
1	月	休館日			
2	火				
3	水				
4	木	キッズ環境スクール② 親子見学ツアー	10:00～16:00	人と自然の博物 館	
5	金				
6	土	第4回代表者会議	13:15～ プラザ	主担・代表者・事務局	
7	日	定例会	13:00～ プラザ	手作りおもちゃ と環境AT	
8	月	休館日			
9	火				
10	水				
11	木	休館日		山の日	
12	金				
13	土				
14	日				
15	月	休館日			
16	火				
17	水				
18	木	キッズ環境スクール③ 定例会	10:00～プラザ 14:00～プラザ	木工・紙すき体験 身近な環境を調べようPT	
19	金				
20	土				
21	日				
22	月	休館日			
23	火				
24	水				
25	木				
26	金	ニュース発送作業		身近な環境を調 べようPT	
27	土				
28	日				
29	月	休館日			
30	火				
31	水				

は、資源リサイクルセンター(くるくるプラザ)の休館日です。●は、一般の方も参加できます。詳しくはプラザまで。

※予定は、変更する場合があります。